
御伽噺

真実

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

御伽噺

【コード】

N1310N

【作者名】

真実

【あらすじ】

事の起こりは、僕が中二になったある夏の日。死神を名乗る少女に遭ってしまったことから、僕に様々な不幸が降りかかる。現実逃避気味の少年の青春を容赦なく奪っていく様々な不幸を描いた、残酷で愉快な物語。

第一話 死神を名乗る少女？

1

彼女は僕に確かにそう言った。

いや、それがもし空耳だったとしても、僕がそれを否定したところでどうにかなる問題では無さそうなのだが。

いや、でも。

そうだとしても。

僕は否定しなければならぬ。

そうやすやすと

命を差し出すわけにはいかない。

2

僕は駆けた。振りほどいた。その言葉を。

「冗談じゃない。」

そんなことあって堪えるものか。

あの、あの東雲しのめいぢゅん一縷いちろうに、あんなもので、僕の人生に幕を下ろさせたりしない。

荒れ果てた森の中、僕はあの女から出来るだけ離れるというたったひとつの目的がために息を切らし、全速力で駆けていた。

体育はあまり、得意じゃない。

その証拠に、もう息が上がってきた。体もだるいし。というより、なんか視界が霞んできた。

アレ？何これ、この感じ。小学生のときに四十人四十一脚で大怪我したけど中休み遊んでたら急にだるくなって倒れたときの感じに限りなく近い。てかそれそのものだろう。

ん？でもおかしくないか？

あのかきは膝から大量に出血していて、貧血気味だったからああいうことになったわけで、今はただ走っているだけだし……。

僕は何だか不審に思い、一旦止まってみることにした。

体育が苦手だからといって僕も男である。

並大抵の女子の足では僕の数にはついて来れないだろう、多分。というか、もう僕だって体力の限界だ。一旦立ち止まって、落ち着いて、そして交番に駆け込んでいけばいい。こんな田舎でも、結構近場に交番っていうものはあるものだ。ここまで来れば、交番は目と鼻の先だ。もう安心して良いだろう。

そして、このだるさの原因を探らなければ。無ければ無いでいいんだけど、まあ気休め程度に身体のおちこちを見渡して

「……………」

見渡すまでも、無かった。

「……………」

僕が視線を落としたすぐそこ、腹に、原因はあった。

……………どうしよう、これは。

夢でもない限りリアクションがとれない、最高級の原因だ。

まさか、まさか僕がこんな格好で森の中を全力疾走していたただなんて。

だからあのかき野良猫に精一杯睨まれたのか……。あのかき対抗心を燃やして睨み返すんじゃないかと、自分の身体をちゃんと確認するんだ。くそ……。

こんな身体じゃあまず人に会えない。会ってしまったらドン引きさ

れる。いや、もっと悪ければ塩でもかけられるんじゃないか。
そのまえにこうなった原因を考えようではないか。そう、この・・・
刻まれ抉られ血だらけになってしまった僕の腹に一体何があったの
かを。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1310n/>

御伽噺

2010年10月9日22時57分発行